

兵庫県立美術館 出前授業のご案内

兵庫県立美術館は、兵庫県にゆかりのある作家や日本の近代以降の絵画、世界の近現代の彫刻・版画・写真・工芸等、9,000点以上の作品を所蔵しています。県内の小・中・高・特別支援学校の児童生徒の皆さんに、学芸員の仕事や、美術作品の鑑賞方法、制作と結びついた鑑賞の授業をご紹介しますため、学芸員や教育担当スタッフが学校にお伺いして、図工・美術の鑑賞授業やキャリア教育の一環としてのレクチャーを行う「出前授業」を実施しております。美術館ならではのプログラムを学校授業の補助としてご活用ください。



吉原治良 《黒地に赤い円》1965(昭和40)年 当館蔵

Plan1 学芸員の仕事とは？ (45～50分間、レクチャー形式)

美術館の役割とは？学芸員の仕事とは？美術館で働いている人はどんな仕事をしているの？等々
展示会ができるまでの様子や、美術館業務に携わる人々の表からは見えないさまざまな仕事を紹介。
★中学校や高校のキャリア教育に最適です

Plan2 作品と出会おう♪ (45～50分間、対話形式)

美術館の仕事を紹介したあと、所蔵作品の画像をスクリーンや大型ビジョンに映し、クラスの仲間と一緒にみる鑑賞授業です。発見したこと・想像したこと・考えたこと等の対話の中から、視点の共有や価値観の差違等、多くの気づきを得られます。**対話を通して鑑賞する方法※**は、美術館の団体鑑賞でもオススメしている方法です。
※詳しくは裏面をご覧ください

★図工・美術の鑑賞の授業にご活用ください

Plan3 ^{わざ}技に注目！ (45～50分間+後日学校での制作時間45～50分、対話形式)

美術館の仕事を紹介した後、所蔵作品の中から面白い技法(例:フロッタージュ=こすりだしやカラージュ等)を用いたものを取り上げ、その技に迫ります。鑑賞授業で見つけた技を、後日学校での制作につなげられるよう、オススメの材料や制作方法等を担当の先生にお伝えします。

★鑑賞体験を制作につなげる授業にご活用ください。

※対話を通して鑑賞する方法とは？

児童・生徒の皆さんに作品をじっくりご覧いただいた後、美術館のスタッフがナビゲーター(=進行役)となって、それぞれが発見したことや気付いたこと、考えたことなどを自由に発表してもらいます。各自が自らの気付きを話し聞くことで、多様な視点や価値観を共有しつつ、作品に迫ることが出来ます。この授業では、美術作品の知識を得ることが第一目的ではありません。作品の鑑賞を通して、自分自身を知り、友達を知ることが出来ます。また、視覚情報を言語化することにより言語力を養い、コミュニケーション能力の向上にも繋がります。みる→考える・気付く・想像する→話す→聞いて考える(→最初の「みる」にもどる)ことで、鑑賞活動は深まります。ぜひ実際に体験してみてください。

出前授業のポイント

- 県立美術館のスタッフが授業を行います。
- 美術館のスタッフは基本的には1名、1クラス1時限です。
※複数クラスの場合は、教室の広さや児童生徒の様子に合わせてアレンジできます。
- 学校で準備いただくものは、パワーポイントが入ったパソコン、スクリーン+プロジェクター(大型ビジョンも可)と、画像を映した時に鮮明に見える暗さに出来る部屋のみです。
- 必ず、事前の打合せをお願いします。
- **スタッフの出張経費は当館で負担します。**
ただし、公共の交通機関を利用して伺いますので、最寄駅までの送迎をお願いします。

実施日は、下記の実施期間のうち、美術館が開館している日になります。

※休館日は月曜日です。月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館です。HP等でご確認ください。
美術館への来館団体の受入が優先になりますので、ご希望に添えない場合があります。

👉 申込み方法

- 別紙「出前授業 希望調査シート」に必要事項をご記入の上、FAXでお申込みください。
※様式はHPからも入手いただけます。
- 結果につきましては、締切り後2週間を目処にFAXにて返信します。
訪問が難しい場合は、それより前に連絡します。日程変更も可能です。
(※3週間を過ぎても返信が無い場合はお問い合わせください。)
- ご希望を多数いただいた場合は、初めての学校を優先して、可能な範囲でお伺いします。

時期	実施期間	受付締切日
1 学期	5・6・7月	4/9(日)
3 学期	1・2・3月	12/1(金)

お問い合わせ

教育支援・事業グループ 学芸員 遊免^{ゆうめん} TEL:078-262-0908

<http://www.artm.pref.hyogo.jp/> →メニューバー「教育プログラム」

出前授業のお申込みは 📠 078-262-0903(FAX)